

## I. 外部評価報告書作成の経緯

# I. 外部評価報告書作成の経緯

## 1. 所内自己点検評価委員会の設置と自己点検評価報告書の作成

平成10年5月に所内に下記のメンバーからなる自己点検評価委員会を設置した。

教 授 今本 博健（所長）  
教 授 池淵 周一（委員長）  
教 授 千木良雅弘  
助 授 中島 正愛  
助 授 多々納裕一  
助 手 武藤 裕則  
助 手 澁谷 拓郎  
事務部長 中村 典秋

自己点検評価委員会は自己点検評価項目等について検討と議論を重ねた上で、下記のような章だてで自己点検評価報告書を平成10年11月に概成させた。

### 目 次

1. はじめに
2. 研究所の経緯と現状
3. 研究活動
4. COE活動と国際交流
5. 教育活動
6. 研究・教育環境
7. 社会との連携

## 2. 外部評価委員の選定と外部評価委員会の構成

防災研究所が設置目的に沿った研究・運営がなされているかを国内外の関係研究者の代表に外部評価していただくために、専門領域を異にする下記の国内外11名の外部評価委員を選考するとともに各先生に外部評価委員を快く引き受けていただいた。

浅井 富雄 科学技術振興事業団研究統括（大気・気象関連）  
片山 恒雄 科学技術庁防災科学技術研究所所長（地震工学関連）  
岡田 恒男 芝浦工業大学教授（構造工学関連）  
木村 孟 学位授与機構長（地盤工学関連）  
藤井 敏嗣 東京大学地震研究所所長（火山学・地球物理関連）  
藤吉洋一郎 NHK解説委員（防災学関連）  
道上 正規 鳥取大学副学長（水工学関連）  
Erich J. Plate ドイツカールスルーエ大学名誉教授（水理・水資源関連）  
Shinozuka Masanobu 米国南カリフォルニア大学教授（地震・構造関連）

Yoshi K. Sasaki 米国オクラホマ大学名誉教授（大気・気象関連）

Keith. W. Hipel カナダウォータールー大学教授（社会システム関連）

上記外部評価委員に加えて所内から下記5名が外部評価委員の質問等に答える対応者として加わり外部評価委員会を結成した。

教 授 今本 博健（所長）

教 授 田中 寅夫（所長経験者）

教 授 高橋 保（所長経験者）

教 授 池淵 周一（自己点検評価委員会委員長）

教 授 古澤 保（将来計画検討委員会委員長）

### 3. 外部評価の依頼

外部評価委員には次頁のような評価の依頼状とともに外部評価の参考に供するため防災研究所自己点検評価報告書ほか、数点を資料として事前に送付させていただいたり、日程等を調整して直接お渡しして説明するなどした。また、国外の4名の外部評価委員には依頼を行い、ご承引を受けた後、別途、部門・センターごとの論文数リストや国際学術雑誌・国際会議等への貢献等を英文で作成・送付するとともに来日の日程を調整した。最終的には次のⅡでの実施概要に見られるように全体対応と個別対応による外部評価にならざるを得なかった。

## 評価の依頼状

国内評価委員に対して

### 京都大学防災研究所に対する外部評価のお願い

拝啓

師走の候、先生におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。先生には日頃から、当防災研究所の諸活動についてご関心をお持ちいただき、誠にありがたく存じ、深く感謝しております。またこの度は当研究所の外部評価委員をお引き受けいただき重ねて厚くお礼申し上げます。

防災研究所は昭和26年（1951年）、災害の学理とその応用の研究を行うことを設置目的に京都大学に3部門の構成で附置されましたが、順次整備され、平成7年には16研究部門、4研究センター及び7実験所・観測所を有する大規模な研究所に発展しました。その後、社会の災害に対する脆弱性の増大の中で起こった阪神・淡路大震災といった巨大災害、地球規模の環境変化と災害頻発の懸念、IDNDRを主導した実績からの災害多発国への積極的な貢献など国内外にわたっての防災学研究への要請と緊急性の高まりにこたえるべく平成8年度には、組織を抜本的に見直し、部門・センターの整理統合によって5大研究部門、5研究センター制に組織替えをするとともに研究所の設置目的を新たに災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究に変更しました。さらに、全国の大学共同利用の研究所としました。こうした改組とともに、昭和26年設置後たゆまず続けてきた研究・教育活動はもとより、わが国の防災研究にあってつねに中心となり新たな研究分野を切り拓こうとしてきた姿勢が評価され、平成8年度同時にCOE研究機関に認められたところです。

当研究所では平成6年7月に“世界から災害をなくすために”を標題とした自己点検・評価報告書を国内外5名の自己点検・評価調査委員の意見を付して発行するとともに、平成7年度は自己点検評価に供するアンケートや資料をまとめるなど点検・評価につとめてまいりましたが、本年度はさらに上記で述べた改組と新体制になった後の研究の進捗状況、プロジェクト研究を中心とした共同研究の進展などを点検・評価することを狙いとし、自己点検評価報告書を作成しました。

そして、こうした自己点検・評価報告書をもとに防災研究所が設置目的に沿った研究・運営がなされているかを国内外の関係研究者の代表にお願いして客観的に外部評価を行っていただくことが適切と考えました。

先生には、外部評価委員として、当研究所の研究活動全般に対する率直なご批判や今後の発展の方向などへのご助言を賜りたく存じます。ご多忙を極めている先生に、このようなご負担をお掛けすることは誠に心苦しいのでありますが、当研究所の発展のため、是非ともお力添えをいただけますよう、重ねてお願い申し上げます。

末筆になりましたが、先生のご健勝とご発展を心より念じてやみません。

敬 具

平成10年12月

京都大学防災研究所所長 今 本 博 健

## 【評価に当たってのお願い】

先生には当研究所全体の研究・教育活動、共同利用及び国際交流について

- 1) 研究業績当から見て学問的貢献を果たしているか。
- 2) 共同研究・共同利用、プロジェクト研究の実績とその成果は得られているか。
- 3) COEとしての機能を果たしているか。
- 4) 研究成果の適切な発表や学会活動への参加など研究活動の促進への取り組みは十分であるか。
- 5) 国際共同研究を含めた国際交流は精力的に行われているか。
- 6) 大学院生の確保や教育への参画とその成果はあがっているか。

などの項目について評価いただきたい。

また、研究組織、運営、予算および社会との連携についても

- 7) 部門・センターの数や研究スタッフの構成、事務組織などは適切か。
- 8) 科学研究費、その他の研究助成金の獲得ならびに研究費の予算配分は合理的か。
- 9) 研究施設は充実し、また有効に機能しているか。
- 10) 学外各種委員などの社会的貢献は十分になされているか。

などの項目について同様に評価いただきたい。

最後に

- 11) 研究所の研究活動をさらに活性化するために取り組むべき重要事項があれば、
- 12) 今後、重点的に遂行すべき研究分野・領域があれば

それらについてもご教示下さい。

当研究所に対する評価の参考資料として、下記資料を同封します。さらに必要な資料がありましたら、お申し付け下さい。また、各資料について疑問点があればお尋ね下さい。上記1)～12)について、合わせてA4・2枚程度（多くなっても結構です。）におまとめいただき、ご署名、ご捺印（私印）の上、平成11年3月末頃までにご送付いただければ幸いです。先生方のご教示を今後にわたり役立てて参りたいと存じます。

なお、各先生方のご意見を外部評価報告書として、学内外機関、文部省等に紹介、公表させていただきますことを、ご了承下さるようお願い申し上げます。

### 添付資料

1. 京都大学防災研究所パンフレット（96～97年度）
2. 京都大学防災研究諸研究概要集（96～97年度）
3. 京都大学防災研究所自己点検・評価報告書